



幼児教育センターだより

富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課
富山県幼児教育センター

第2回園内研修充実のための研修会

【実施日】1月8日（水）

【参加者】園(所)内研修を担当する中堅から管理職の
幼稚園教諭、保育教諭、保育士等

【参加された方の声】

○グループ協議

皆さんの頑張りに感銘を受け、悩んでいるのは私だけじゃないと思え、自分も明日からまた頑張ろうというやる気につながりました。

○ポスターセッション

座り方や人数を工夫することで、研修の雰囲気が少しずつよくなりました。自己紹介カードやワークシートの記入等、さらに他園・所の取組を聞いたので、これから実践していきたいです。

話す人によって伝え方が、聞く人によって伝わり方が変わり、それをグループで共有すると自分では気付かなかった学びに出会えた感覚が新たな発見でした。ポスターセッションの研修を、是非自園の園内研修でもやってみたいと思いました。



幼児教育スーパーバイザーより



青山 SV

研修会の様子から、園内研修を豊かにしたい、保育をよくしたいという皆さんの思いが伝わってきました。

園内の保育者の方々に関心をもつ、寄り添う、認める気持ちを大切に、ポジティブに研修を進めていきましょう。

いろいろな立場の先生方が垣根を越えて、「園内研修の充実を図りたい」という意識をもって、積極的に話し合い、段々とヒートアップされていく姿に感動しました。

今後もそれぞれの立場から、自園にとって必要なことを考え、園内研修を進めていってもらえたら嬉しいです。



高見 SV

幼児教育関係の研修に係る W G

ワーキンググループ

【実施日】1月10日（金）

【参加者】幼児教育団体研修担当者、県関係課担当者

【内 容】各団体・各機関の研修についての情報交換

【各団体での取組より】

- ・参加しやすい日程で研修を計画。
（土曜日に開催、平日の場合は遅い時間での開催）
- ・主体的に参加できるよう、内容を工夫。
- ・ニーズに応じた研修テーマの設定、講師への依頼。

【富山短期大学 宮田 徹 先生より】

研修には、保育の専門性を高めることを目的とした側面と、関係性や同僚性を育むことを目的とした側面があります。この二つの側面は、別々の研修というよりは、一つの研修の中で同時に進行するプロセスだといえます。

特に若い保育者にとっては、これらのプロセスがバランスよく組み込まれることで、保育の魅力ややりがいを実感しながら専門性を向上させることが期待されます。

切れ目ない支援のための「にこにこファイル」について

「にこにこファイル」とは、

- ・乳幼児期から学校卒業後までにわたって、子どもの支援に関わっている人たちがこのファイルを使って連携を図り、切れ目ない一貫した支援を行うためのものです。
- ・検診や受診、相談機関や福祉サービス利用等の記録、母子手帳や個別の教育支援計画も一緒にファイリングしておくことで、就学や進学、緊急時等に、相談先の担当者に必要な情報を適切に伝えることができます。
- ・活用のためのガイドもあります。
県のHPからダウンロードが可能です。
ぜひ一度、ご覧いただき、活用又は参考になさってください。



（教育みらい室特別支援教育課）

幼保小の円滑な接続について

—第3回市町村幼児教育担当者等連絡協議会より—

【実施日】1月27日（月）

【参加者】市町村幼児教育担当者
市町村教育委員会担当者
教育事務所指導主事

総合教育センター研究主事 等

【内 容】令和6年度の取組紹介と令和10年度までの接続ロードマップについて

【市町村担当者より】

- ・令和6年度は現状把握をした。令和7年度以降、まずは担当者が幼保小接続について学ぶことから始めたい。
- ・同じ行政の中でも、どのように小学校側に声をかければよいのか。ハードルが高く難しい。



- ・市の幼児教育アドバイザーが幼と小を行き来して、カリキュラム等のアドバイスを行った。他市でも、令和7年度から幼児教育アドバイザーを設置する動きがある。
- ・幼と小がすでに持っているカリキュラムを互いに見合うことから始めたい。

架け橋期のカリキュラム作成に関わる話題がいくつも聞かれました。幼と小の「学びをつなぐ」とは何をつなぐのか。「幼保小の架け橋プログラムの実施に 向けての手引き（初版）」（※特に24p以降）等を参考にしていただけたいと思います。



第52回訪問研修として、企業主導型認可外保育園と地域型保育園に訪問させていただきました。家庭的な雰囲気の中で、先生方が子どもの思いを大切に聞けようと、日々研修を充実させておられました。笑顔いっぱいの先生方と子ども達に、訪問した側が元気をもらった研修会でした。初めての公開保育ということでしたが、「質問できたよかったです」「明日からの保育を楽しみます」「勇気を出して訪問を受けてよかった」など、嬉しい感想をいただきました。



わくわく・きときと接続ガイドⅡを配布しました！

本ガイドは、保育者と教員が、互いの理解をより深めることができることを願って作成しました。ガイドを片手に参観し合い、「こんな言葉をかけたのはなぜかな？」「どうして子どもは夢中になって遊んでいるのかな？」など、話し合っていたらと考えています。

県のHPからダウンロードすることも可能です。ぜひご利用ください。



★新タスーパーバイザーから今月の一言★

～改めて、幼保小接続とは～

令和6年度がまもなく終わります。4月に入学した子どもたちは、「学校は楽しい」「勉強は楽しい」と何度も感じ、進級に向けて「あれが楽しみ」「こんなことしてみたい」と胸を膨らませていることでしょう。この気持ちは令和7年度に入学してくる子どもたちも同じです。「今、こんなことができるんだよ」「小学校で、もっとこんなことができるようになりたいんだ」と瞳をキラキラさせているでしょう。子どもたちの、小学校で学ぶことへのワクワクは、その後の学びに続く大切な原動力です。子どもの内なる火（身に付いている力）を消さず、さらに大きくする（伸ばす）。子ども発の学びが子どもの主体性につながります。

「目の前の子どもを見つめ、その子どもに関わる大人同士が、子どものためにできることは何か」一緒に考えていきましょう。



新タ SV



【2月の主な予定】

4日（火）アドバイザー研修会

5日（水）幼・小接続推進委員会